

東京病院ニュース

第77号



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~tokyo/>

令和2年 新年を迎え

国立病院機構東京病院院長 當間 重人

新年、明けましておめでとうございます。

今年も、十二支でいうと「子（ねずみ）」、さらに詳しく干支でいうと「庚子（かのえ・ね）」です。「庚子」という干支は、十干である「庚」と十二支の「子」の組み合わせで成り立っています。十干は太陽の日の出から日の入りまでを「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」の10に等分、一方、十二支も月の満ち欠けをモデルにして生命の循環を表し、「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」と12に等分していたものであるとのことです。「干支」は「干」と「支」の組み合わせであり、今年の「己亥」から「干」「支」それぞれがひとつ進んで（己→庚、亥→子）、「庚子」となります。ここまでの記述は、昨年年初の東京病院ニュースとほぼ同じです。

さて、今年の十二支「子」は「ねずみ」をも指すわけですが、そもそも十二支に動物の意味付けはなく、植物の生命循環の様子を表したものです。「子」は本来「孳」という字で、種子の中に新しい生命が萌し始める状態を指すそうです。やがて芽が出て、葉が茂り、実が成り、種ができる、そしてそれらが繰り返される。その様子を十二の状態に分けて示しているのが十二支。現状にとどまることなく、常に変化し続けることの重要性をも意味しているように思います。

ということで、今年も患者さんにとってより快適で充実した医療を受けることができる病院づくり、また職員全員にとって気持ちよく楽しく働ける職場環境づくりのため、無限の変化発展に努める所存でございます。



2020年（令和2年）1月

第14回東京病院市民公開講座

東京病院副院長 松井 弘稔

昨年12月1日に、第14回目の市民公開講座を、東京病院の外来ホールで開催しました。今回の講演は、呼吸器内科医長 大島信治先生による「長引く咳～もしかしたら喘息ではありませんか?」と、副理学療法士長 大釜由啓先生による「転ばないためのからだづくり」の2つでした。咳の話は、咳が続くときにいつごろ受診したらいいのか、長引く場合には原因としてアレルギー性のものが多く、吸入治療で改善するなどの話がありました。もちろんそれ以外でも咳が出る病気は多いので、レントゲンを撮ることの重要性も強調されていました。



理学療法士の大釜先生は会場の皆さんと一緒に「東京病院体操」というオリジナルの運動を行う場面もあり、筋力と柔軟性の重要性を強調されていました。転倒してしまうと、骨折したり、転倒を恐れて閉じこもったりするので、転倒しないよう筋力を維持し柔軟性を保つために必要な毎日の運動が紹介されました。どちらの講演に

も、会場の方から質問がたくさんあり、終了後も講師に質問する姿も見られ、盛会のうちに終了しました。

今年は、12月に入ってから市民公開講座の開催ということもあり、少し寒い日でしたが、大勢の方に集まっていただきました。次回の日程はまだ決定していませんが、アンケートなどをもとに、講演内容を決めていきたいと思います。院内掲示、ホームページなどをご覧いただき、ぜひ次回もご参加よろしく申し上げます。



シリーズ診断と治療 ▶ 放射線治療は何ができるか？

放射線診療センター部長 三上 明彦

がんは生涯で二人に一人になるほど増えている、とメディアでもさかんにいわれるようになりました。それでは自分がもしそうなったらどうしようとか、考えたことはおありでしょうか？

もう珍しくない病気ですので、突然その事実を告げられ、どう向き合っていけばよいのか、「目の前が真っ白」「仕事・家族・生活は」「死にたくない」など混乱してしまうのは当たり前だと思います。そして見つかったのが確実にがんならば、事実と真正面から向き合いつつ、何とか治療したいとお考えになる人が大部分だと思います。

それではどうやってがんを消し去りましょうか。それには皆さんご存知の、三大武器である手術・薬物・放射線を使います。しかしどうしても他の正常な組織へも影響が及んで体に負担がかかり、程度の差こそあれ副作用は避けられません。がんそのものが体を傷つけることを止めさせようとしているのに、逆に副作用によって生活に支障をきたしてしまうことがあるかもしれません。なかなかがんを戦うのは大変です。

多少身を削りながらも、その許容範囲内でがんを消し去ることができれば、そこで一旦落ち着けます。しかし残念ながら、どうしてもがんが消えずに残ってしまい、戦い続けるのが難しくなった場合、がんが増殖し続けるなら人生最終段階の過ごし方を意識しなくてはなりません。傷ついた臓器の症状が出たり、重要臓器が侵されると生命活動の維持が危うくなるかもしれません。しかしせめてその症状を緩和しながら、少しでも生活の維持ができればとお思いになるかもしれません。

さて、ここまでの経過において、放射線治療はどのようなお手伝いできるでしょうか。

- ①放射線は細胞の DNA を損傷するので、がん細胞にはなるべく集中して強力に当てて、周囲の正常細胞にはあたりすぎないようにできれば、がんを消し去る確率が高くなります。→根治照射、ピンポイント照射、強度変調放射線治療 (IMRT)、重粒子線などの技術使用。手術・薬物療法と協力すればより効果を高められることがあります。
- ②がんを消し去ることができなくても、ある程度でも当てることできれば、症状を軽減したり、延命を図れるかもしれません→緩和照射 (姑息照射)。

つまり放射線治療は、すべてのがんにおいて適応となりうると考えられます。

根治照射の主な対象

- ・ 脳腫瘍
- ・ 頭頸部
- ・ 肺癌
- ・ 乳癌
- ・ 食道癌

緩和照射の主な対象

- ・ 骨転移による疼痛・骨折予防
- ・ 脳転移
- ・ 腫瘍浸潤による疼痛
- ・ 神経圧迫による疼痛・しびれ・麻痺
- ・ 気道狭窄による呼吸困難

がんの診療につきまして、基本的に臓器別の専門医が担当されると思いますが、ご自身はがんとどう向き合いたいのか、放射線治療医の意見も聞いてみたいという場合はどうぞご相談ください。

結核について (22)

呼吸器内科 山根 章

前回も、結核の感染についてお話ししました。

要約すると、

- ① 結核根絶のためには結核菌感染者の発病を予防することが重要である。結核感染者の中でも感染してから間もない人は発病リスクが高いため、最近に感染したことがわかっている結核患者接触者が主な発病予防の対象になっている。
- ② 結核患者接触者が実際に結核に感染しているかどうかを調べるために、接触者健診が行われている。
- ③ 接触者健診では感染の有無をIGRA検査によって調べている。結核に感染したと考えられた場合には、発病予防対象候補者として医療機関に紹介される。

ということでした。

今回も引き続き結核の発病予防について考えてみたいと思います。

ある患者さんが結核を発病すると、その方の周囲の人に感染が広がっていないかどうかを調べるために、保健所が接触者健診を行います。接触者とは、結核菌を放出している（排菌している）患者さんと一緒の場所にいた人のことで、接触時間が長い人など感染の危険度が高いと考えられる人を優先して健診の対象としています。

前回お話ししたようにIGRA検査（第17回で説明しました）を行って、感染したかどうかを調べます。その結果、IGRA陽性と判明した接触者は、発病予防対象候補者として、医療機関に紹介されます。

医療機関の方では、紹介された結核患者接触者に対して発病予防を行うべきかどうかを判断しなければなりません。気を付けなければならないのは、IGRA検査が陽性だったときには、単に感染したにとどまらず、既に結核を発病している場合もありえることです。既に発病していることに気付かずに、発病予防策を講じたとしたらどうなるのでしょうか。

以前少し触れましたように、結核の発病予防には抗結核薬を1種類使用するのが通例です。結核を発病している人に抗結核薬を1種類だけ飲んでもらったとしたら、以前第5回で説明したように、その薬が効かない結核菌（耐性菌）の出現を招く恐れがあります。従って、IGRA検査陽性の結核接触者については、結核を発病しているかどうかを調べるということが重要であるということになるのです。

結核はほとんどの場合、肺結核として発病しますので、発病の有無を調べる時には胸のレントゲン写真をまず撮ります。この検査で異常が認められなかった場合、従来は結核の発病はないと判断していました。しかし、実際には胸のレントゲン写真では検出できない程度の病気が胸部CT検査で認められることもあります。従って、発病の有無を調べるためには胸部CT検査を行った方が良いと思われます。このことに対しては異論もありますが、当院内では概ね胸部CT検査を行うことで意見が統一されています。

このように検査を行った結果、まだ結核が発病していないことが確認された場合に、発病予防策を講じることとなります。

この先のことは次回お話ししたいと思います。

院外処方せんにおける「疑義照会事前同意プロトコール」について

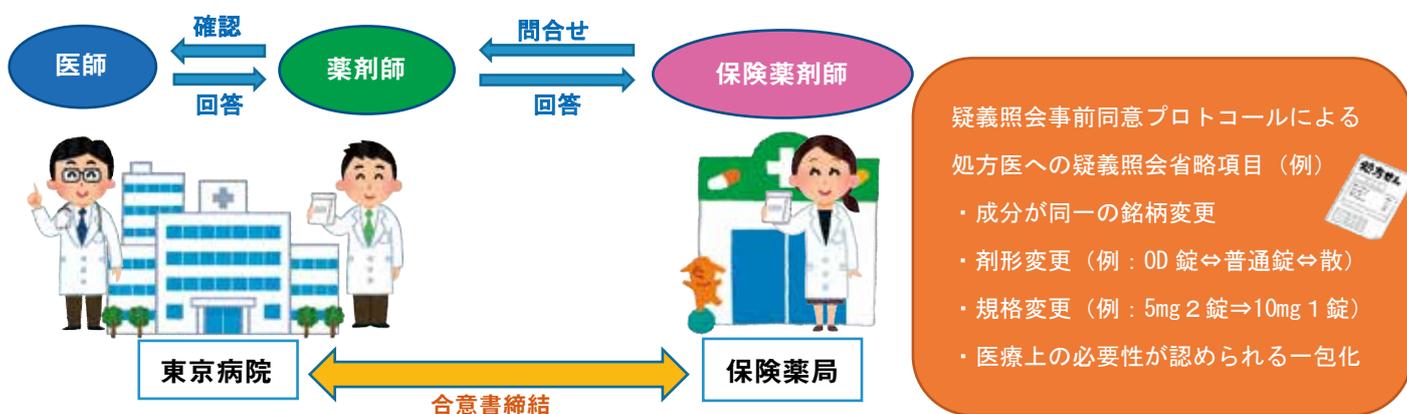
薬剤部長 稲生 和彦

当院では外来受診された患者さんのお薬については院外処方せんを発行し、保険薬局でお薬をいただけてもらうこととしています。保険薬局は、受け付けた院外処方せんの記載通りに調剤を行いますが、他の病院のお薬との重複や飲み合わせに問題があるなど場合には、処方医への確認（以下「疑義照会」と言う）をした後に、お薬を変更して調剤することがあります。このような保険薬局による処方医への疑義照会は、患者さんの安全な薬物治療を行うためにとても重要です。一方、保険薬局からの疑義照会の中には、成分が同一のお薬の銘柄変更や剤形の変更のように治療に直接影響しない処方変更に関するものも含まれています。このような形式的な変更をその都度処方医に確認することは、診療の中断や保険薬局でのお薬待ち時間の増加など、患者さんにご迷惑をおかけすることになります。

そこで当院では、院外処方せんにおける調剤上の形式的な変更に伴う疑義照会を減らすことで、処方医の円滑な診療と保険薬局の本来業務である患者さんへの薬学的ケアの充実および保険薬局でのお薬待ち時間の短縮を図ることを目的として、院外処方せんにおける「疑義照会事前同意プロトコール」を作成し、運用を開始しました。

運用開始にあたっては、清瀬市薬剤師会にもご協力をいただき、2019年10月24日に当院において説明会を開催し、東久留米市、小平市、東村山市から28薬局の参加をいただきました。「疑義照会事前同意プロトコール」の適正な運用のため、内容の十分な理解と合意書の締結を必要としており、現時点において25店舗の保険薬局と合意書を締結して運用を行っております。引き続き、参加保険薬局の拡大と各保険薬局との連携に努めていきたいと思っております。

【当院における院外処方せん疑義照会の流れ】



【東京病院薬剤部ホームページ】

<https://tokyo-hp.hosp.go.jp/bumon/yakuzai/index.html>

第21回東京病院地域医療連携交流会を開催致しました。

地域医療連携部長 益田 公彦

令和元年10月31日（木）19時25分より大会議室にて、第21回東京病院地域医療連携交流会を開催致しました。お忙しい中、83施設176名の先生方・医療スタッフの皆様方にご参加いただき、盛大な会となりましたことを心よりお礼申し上げます。

當問重人院長より開会の挨拶につづき、リハビリテーション科医長の伊藤郁乃より「嚥下機能評価と摂食指導」と題して、嚥



下機能の評価法や様々な嚥下食についてお話いただきました。ヒトの嚥下の仕組みや機能低下による嚥下の問題点を再認識することができました。講演会の最後に今年4月から東京病院地域医療連携推進委員会副委員長を努めていただいております田中英樹清瀬市医師会長によるご挨拶で盛会裡に閉会しました。講演会終了後は当院食堂に場所を移して懇親会を開催し、石橋幸滋東久留米市医師会長からご挨拶を、つづいて奥村秀小平市医師会長に乾杯のご発声をいただきました。当院からは新任の医師の紹介を、臨床研究部と呼吸器内科よりさせていただきました。地域の先生方をはじめ多くの多職種の医療スタッフの方々にご参加いただき、短い時間でしたが楽しく意見交換をすることができ、重ねて感謝申し上げます。

また、地域医療連携交流会に先立ちまして、19時より第13回東京病院地域医療連携推進委員会を開催致しました。北多摩北部2次医療圏の清瀬市、東久留米市、小平市、東村山市、西東京市、および所沢市、朝霞地区の各医師会ご協力のもと、各医師会長の先生方、医師会よりご推薦頂いた先生方、推進委員の先生方にご参加いただきました。



次回の第22回東京病院地域医療連携交流会は、令和2年6月18日（木）19時25分より開催を予定しております。先生方をはじめ多職種の医療スタッフの方々と顔の見える地域医療連携をめざし、より良い地域医療連携交流会となるよう、スタッフ一同努力して参ります。次回も多数の方々にご参加いただければ幸いです。



独立行政法人 国立病院機構東京病院

出前講座のご案内

東京病院では、地域の方々との交流、健康づくりのお手伝いの一助として、当院職員による「出前講座」をご用意いたしました。皆様の地域に出向いて、専門的な内容を分かりやすくお話いたします。また、地域の皆様との交流を通じ、当院への理解を深めていただけるような講座になっております。まずはお気軽にお電話ください。

番号	講座名	講師
1	たばこの害について	副院長 松井弘稔
2	PM2.5はどれほど危険か	副院長 松井弘稔
3	いびきを放置するのは危険？～睡眠時無呼吸の話～	副院長 松井弘稔
4	増えている非結核性抗酸菌症	統括診療部長 永井英明
5	結核は過去の病気ではありません！	統括診療部長 永井英明
6	大人のワクチンについて	統括診療部長 永井英明
7	こんな時は脳神経内科を受診してください (脳神経内科が診療する疾患について)	脳神経内科医長 小宮正
8	脳卒中になったら、ならないために…	脳神経内科医長 小宮正
9	認知症の予防と治療について	脳神経内科医長 小宮正
10	パーキンソン病の治療の進歩	脳神経内科医長 小宮正
11	「お茶でむせる」は要注意！～飲みこみの障害とその対策について	リハビリテーション科医長 伊藤郁乃
12	感染症から身を守ろう！～今日からできる正しい手洗い～	感染管理認定看護師 松本優子
13	抗がん剤と副作用	がん薬物療法認定薬剤師 植木大介
14	糖尿病のお薬について	薬剤師(日本糖尿病療養指導士)
15	ジェネリック医薬品(後発医薬品)とは	副薬剤部長 齋藤敏樹
16	早期からの緩和ケアについて	緩和ケア内科医長 池田みき
17	生活習慣病の食事について	栄養管理室長 中野美樹
18	在宅療養の食事について	栄養管理室長 中野美樹

○開催日時・場所

開催日時は、原則平日の午前9時から午後5時の間で、1時間程度といたします。
会場のご用意は、主催団体側にてお願いいたします。

○申し込みができる団体

町内会、自治会、老人会、市民サークルなどの地域団体、企業、学校などで、
当日概ね20人以上の参加が見込まれる団体です。

○申込方法(☎042-491-2111)

希望日の概ね2週間前までに、東京病院経営企画室までお電話で希望日時と講座名を
お伝えください。日程調整を行い、当院担当者よりご連絡を申し上げます。

○その他

講演料は無料となりますが、講師の開催場所への移動に關しての交通費等は、
主催団体側にてお願いしております。

○お問い合わせ 東京病院経営企画室 TEL042-491-2111



独立行政法人 国立病院機構 東京病院

外来診療担当医師表

〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1 (令和2年1月6日現在) TEL 042-491-2111(代) FAX 042-494-2168

<予約センター> TEL 042-491-2181 ※平日の8時30分～15時00分

<地域医療連携室> TEL 042-491-2934/FAX 042-491-2125 ※平日の8時30分～15時30分(医療機関からの問い合わせを除く)

【受付時間】 初診 : 8時30分～14時00分 再診(予約外) : 8時00分～11時00分

★は、予約患者様のみの診療です。

診療科名	月	火		水		木		金		備考		
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後			
呼吸器センター	専門外来											
	呼吸器内科	初診	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	
			★武田	★川島(正)	新福	★藤谷	榎本	★鈴木(淳)	★田村	★山根	松井	★中村
		再診	佐藤(亮)	★鈴木(淳)	★赤川	★日下	永井(英)	★藤谷	山根	★新福	田村	
			鈴木(淳)	★田村	島田(昌)	★榎本	★守尾	★守尾	★益田	★鈴木(純子)	★成本	
			松井	★益田	★藤谷	★佐藤(亮)	★井上(恵)	★井上(恵)	鈴木(純子)	★川島(正)	★中村	
			★益田	★鈴木(純子)	★大島	★新福	花輪		日下	★武田	大島	
			井上(恵)	★武田		★島田(昌)			★川島(正)	★益田		
			鈴木(純子)			★池田			★島田	★榎本		
									伊藤	★渡辺		
										★佐々木		
	間質性肺炎					★赤川						
	非結核性抗酸菌症					★倉島						
	いびき・COPD	当番医		当番医		★松井	★松井	当番医		当番医		
	喀血				★益田※2							
肺がんセカンドオピニオン				★川島※1				★田村				
感染症								★永井(英)				
禁煙				★松井								
肺高血圧		★日下										
抗酸菌症									★山根			
慢性呼吸器疾患看護外来	★認定看護師	★認定看護師										
呼吸器外科	初診			当番医	当番医				当番医	当番医		
	再診			井上(雄)						深見		
喘息・アレルギー・リウマチセンター	アレルギー科(喘息)	初診	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医		
		再診	田下	田下	田下	★田下	田下	鈴木	★田下	★大田		
	杉花粉症舌下免疫療法	初診										
		再診				★当番医				★当番医		
	リウマチ科	初診					當間	當間	古川	古川		
		再診					當間	當間	古川	古川		
	眼科	初診	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	
		再診	上甲	上甲	上甲	上甲	上甲	上甲	中山	中山		
	耳鼻咽喉科	初診			★田中	★田中			★宇野			
		再診			★田中	★田中			★宇野			
消化器センター	消化器内科	初診	当番医		当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医		
		再診	★上司	★上司	★佐藤		★染村	★上司※1	★時田※1	佐藤		
	消化器外科	初診	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医		
		再診	高井		小林		中田		中田	元吉		
総合診療センター	総合内科	初診	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医		
	糖尿病外来			★井出	★井出							
	循環器内科	初診	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医		
		再診	★小川				★石橋		★岡橋		★青木	
	脳神経内科	初診	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	
		再診	椎名		小宮		小宮		★栗崎※1	★栗崎※1	中村(美)	
			石津		中村(美)		椎名		石津		小宮	
	ものわずれ							★小宮	★栗崎※1	★栗崎※1		
	高次脳機能障害							★栗崎※1	★栗崎※1			
	整形外科	初診			堀		杉村		堀		堀	
		再診	★堀		堀		★堀				小俣	
	リハビリテーション科	初診	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医	
		再診	★当番医	★当番医					★濱田※		★新藤	
	リハ/整形外科											
地域リハビリ相談							当番医					
泌尿器科	初診	瀬口		山中		瀬口			山中			
	再診	瀬口	★山中※	山中		瀬口			山中			
緩和ケア内科			池田				三上	三上	永井(英)	池田		
歯科	初診	高島		高島		高島		高島		高島		
	再診	高島		高島		★高島		高島		★高島		
放射線科	初診		★三上		★三上				★多湖	三上		
	再診	★三上	★三上	★三上	★三上	★三上	★三上	★三上	三上	三上		

嚔血外来は
※1 第2週・第4週の診療
※2 第1週・第3週・第5週の診療

眼科の初診は、
月・水・木・金は、14:00まで受付
火は、11:00まで受付
火は、第2、4週のみ診療

消化器内科の初診は、
月・水・木・金は、12:00まで受付
※1 第2週・第4週のみ診療
※2 第1週・第3週・第5週のみ診療

神経内科の初診は、
月・水・木・金は、14:00まで受付
火は、11:00まで受付
※1 第1週・第3週のみ診療
※2 第2週・第4週・第5週のみ診療

整形外科の初診は、
火・金は、11:00まで受付
水は、14:00まで受付

※第1週・第3週のみ診療

泌尿器科の初診は、11:00まで受付
※第1週・第3週・第5週のみ診療

歯科の初診は、
月・火・水・金は、14:00まで受付
木は、12:00まで受付

診療科目

- 内科
- 脳神経内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- アレルギー科
- リウマチ科
- 外科
- 消化器外科
- 整形外科
- 呼吸器外科
- 泌尿器科
- 眼科
- 耳鼻いんこう科
- リハビリテーション科
- 放射線科
- 麻酔科
- 緩和ケア内科
- 感染症内科
- 病理診断科
- 歯科

「人間ドック」受付しております。

<実施期間>「人間ドック」：平日の月・水・木曜日のみ

<受診を希望される方は>

完全予約制となっておりますので、ご希望の方は下記の予約センターまでお問い合わせください。

【予約センター：TEL 042-491-2181 受付時間：平日 8:30~15:00】

受付時間：初診 8:30~14:00
再診 8:00~11:00

(科によって、診療を行って
いない曜日、時間があります)

予約センター 042-491-2181
(受付時間平日8:30~15:00まで)

専門外来案内

専門外来名		診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
	禁煙(予約制)	火(午後)	タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
呼吸器 関係 外来	肺がんセカンド オピニオン(予約制)	木(午後)	肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。 [1時間まで10,800円]
	咯血(予約制)	火(午後)	咳をともなって気道・肺から出血する状態を咯血といいます。肺アスペルギルス症、気管支拡張症、非結核抗酸菌症、肺結核、肺癌の患者さんにおこります。ご相談ください。
	間質性肺炎(予約制)	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合があります。
	非結核性抗酸菌症	水(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
	いびき COPD (睡眠時無呼吸症候群の検査)	月~金(午前)	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
	難治性喘息外来 (予約制)	月・水・金(午前)	通常の喘息治療でうまく喘息がコントロールされていない難治性喘息の方。
ものわすれ外来(予約制)	水(午後)、 木(第1・3週のみ)	最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)	
高次脳機能外来	木 (第1週・第3週のみ)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など(要神経内科外来受診)。	
地域リハビリ相談	木(午前)	連携医の先生方からかかりつけの患者様で、運動・言語・嚥下機能に問題があり、 リハビリテーションをご希望の方。(かかりつけ医の情報提供書が必要です。)	

地域医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合(医療機関)
外来診療の予約 : 診療依頼書をFAX送信して下さい
CT・MRI検査の申し込み : 地域医療連携室へお電話下さい

地域医療連携室

FAX 042-491-2125 (8:30~17:15)
TEL 042-491-2934 (8:30~17:15)

交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅より無料シャトルバス運行中
- 西武新宿線 久米川駅北口より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車でお越しの際は正面よりお入り下さい。

(駐車場265台)

30分以内 無料

31分~4時間 100円

以後1時間毎 100円

(20時15分~7時 1時間毎300円)

WEB検索

東京病院

検索

